

平成31年度埼玉県学力・学習状況調査の結果について

1 結果概況

「内容別の主な結果」の分析

- ・「直方体を組み合わせた立体の体積を求める」については、約61%の正答率であり、県の平均正答率を0.7ポイント上回っている。
- ・「教科の領域等」「評価の観点」「問題形式」の全てにおいて、県の平均正答率を下回っている。

「今までの学力変化」の分析

- ・学力レベルは毎年伸びているが、今年度の学力は県の平均正答率を下回った。

「学力の伸びの状況」の分析

- ・上位層、中位層、低位層のいずれの層の生徒も学力を伸ばしている。特に上位層、低位層の伸びが見られる。

2 内容別の主な結果

同一集団
の
成績推移

○ 向上した
変化なし
▼ 低下した

同一集団 の 成績推移		平成29年度 小学校5年生			平成30年度 小学校6年生			平成31年度 中学校1年生			経年変化	
		学力レベル・全体正答率			学力レベル・全体正答率			学力レベル・全体正答率			全体正答率	
		草加市	埼玉県	県との差	草加市	埼玉県	県との差	草加市	埼玉県	県との差	前年度の 「県との差」 の比較	
		6-C	6-C	0	6-A	6-A	0	7-B	7-B	0	-1.2	▼
		61.7	61.6	0.1	55.4	55.2	0.2	58.8	59.8	-1.0	-1.2	▼
		平均正答率(%)			平均正答率(%)			平均正答率(%)			経年変化	
		草加市	埼玉県	県との差	草加市	埼玉県	県との差	草加市	埼玉県	県との差	県との差の比較	
教科の 領域等 (小学校)	数と計算	66.7	66.2	0.5	62.1	61.2	0.9	58.5	59.7	-1.2	-2.1	▼
	量と測定	51.8	52.6	-0.8	45.5	46.0	-0.5	50.2	51.4	-1.2	-0.7	▼
	図形	67.4	66.9	0.5	66.9	66.5	0.4	64.1	64.2	-0.1	-0.5	▼
	数量関係	56.0	56.1	-0.1	43.5	43.6	-0.1	61.8	63.3	-1.5	-1.4	▼
評価の観点 (小学校)	算数への関心・意欲・態度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	数学的な考え方	28.8	26.0	2.8	43.3	42.9	0.4	42.3	43.5	-1.2	-1.6	▼
	数量や図形についての技能	63.2	62.9	0.3	56.8	57.0	-0.2	59.4	60.4	-1.0	-0.8	▼
	数量や図形についての知識・理解	67.9	68.5	-0.6	58.7	58.0	0.7	66.1	66.9	-0.8	-1.5	▼
問題形式	選択式	62.7	63.3	-0.6	50.8	50.6	0.2	61.4	62.3	-0.9	-1.1	▼
	短答式	62.5	62.3	0.2	61.2	60.9	0.3	57.6	58.6	-1.0	-1.3	▼
	記述式	34.8	27.5	7.3	12.0	12.3	-0.3	39.8	41.6	-1.8	-1.5	▼

3 今までの学力の変化

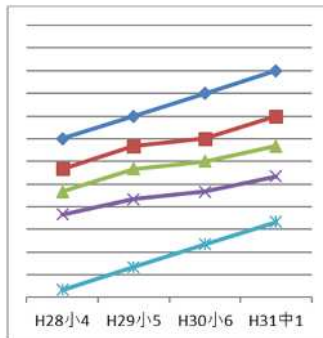
草加市

埼玉県

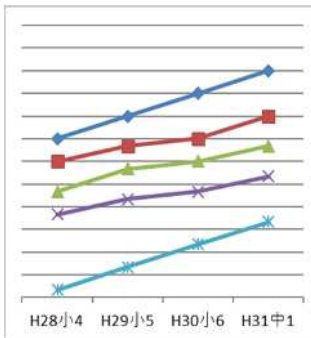


4 学力の伸びの状況

草加市



埼玉県



- 最大値（最も学力が高い児童生徒が属する学力レベル）
- → 75%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%に当たる児童生徒が属する学力レベル）
- ▲ → 中央値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%に当たる児童生徒が属する学力レベル）
- × → 25%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%に当たる児童生徒が属する学力レベル）
- ★ → 最小値（最も学力が低い児童生徒が属する学力レベル）

・指導が必要な項目

【数量や図形についての技能】 短答式 平均正答率 草加市 35.0 埼玉県 39.2 差 -4.2 無解答率 12.2

問題の概要 度数分布表を見て、特定の生徒の人数の、全体の生徒の人数に対する割合を求める

出題の趣旨 度数分布表を読み取ることができる

【数学的な考え方】 記述式 平均正答率 草加市 39.8 埼玉県 41.6 差 -1.8 無解答率 35.4

問題の概要 問題の場面を式に正しく表す

出題の趣旨 問題の場面を正しく読み取り、誤った式を正しく修正することができる

「数量や図形についての技能」に関する指導について

分析

- ・ 度数分布表を見て、特定の生徒の人数の、全体の生徒の人数に対する割合を求めることについて、県の平均正答率より低い。

指導のポイント

- ・ 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察することを通して、度数分布表から特定の階級の全体に対する割合を求める活動を設定する。

「数学的な考え方」に関する指導について

分析

- ・ 問題の場面を式に正しく表すことについて、県の平均正答率よりやや低く、無解答率が高い。

指導のポイント

- ・ 問題の場面の数量に着目し、数量の関係を簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりする活動を充実させる。